

①趣旨

令和4年度に実施した健康推進本部会議において、「自殺対策について、子どもに直接尋ねるのは難しいため、日頃より子どもたちと接しているおとなに対し、現場の状況等を尋ねてはどうか」という趣旨のご意見がありました。

つきましては、いただいたご意見に基づき、日頃より子どもたちと接しておられている先生方に、現場の声として、以下を趣旨としたアンケートを実施させていただきたいと考えております。

- ・児童・生徒自身の自死に関する相談・対応の有無
- ・コロナ禍以前と比較し、自死に関する相談・対応に変化を感じているか
- ・(変化を感じている場合) 具体的にどのような変化を感じているか
- ・自死に至らないために必要な研修や対策について

②実施方法(案)

①8月31日(木) 校長会にてご協力をお願い

②校長会終了後～9月中旬頃(予定) アンケート実施

回答方法：調査紙を配布し、次のいずれかによる方法にて回収予定

- ・回答用紙(同封した返信用封筒を使用)
- ・LOGOフォームを使用したWEB回答形式(QRコード又はURLを記載します)

③アンケート対象者(案)

市内小中学校教員

市内小中学校に配置されている心の教室相談員・スクールカウンセラー

④アンケート案 裏面参照

⑤アンケート回答の活用方法について

集計後のデータを分析し、現在策定中である「第2期 ひらかたいのち支える行動計画(枚方市自殺対策計画)」において、施策目標や推進事項を定める際の参考データとして活用予定。

⑥その他

- ・アンケート結果については、教育委員会と共有させていただきます。
- ・回答者が特定できないよう、属性についての質問項目は設定しません。

アンケート内容 (案)

1) 在籍している児童・生徒自身の自死に関する相談や対応を行ったことはありますか。

(過去に一度でもあれば「はい」とお答えください。)

①はい ②いいえ

2) 1) において① (自死に関する相談や対応を行ったことがある) と回答された方にお尋ねします。

児童・生徒自身の自死に関する相談や対応を行ったのはいつですか。(複数回答可)

①コロナ禍以降 (令和2年2月以降) ②コロナ禍以前

3) 2) において①と回答された方にお尋ねします。

コロナ禍以前と比較して、自死に関する相談や対応について変化を感じていますか。

①はい ②いいえ

また、① (変化を感じている) と回答された方はどのような変化を感じていますか。(自由記載)

例) 件数が増えた／内容が深刻化している／悩みに気づきにくい／実際に自傷行為に至る
ケースが増えている など

[

4) 児童・生徒が自死に至らないため、どのような研修や対策が必要と考えますか。(複数回答可)

- ① 悩みを抱え込まず周囲に助けを求めることを学ぶ教育 (SOSの出し方教育)
- ② 子どもが出したSOSに気づき、受け止めるための教員や保護者に対する研修の実施
- ③ 小中学校における、児童・生徒に対するゲートキーパー (※1) 研修の実施
- ④ 教員や保護者に対するゲートキーパー (※1) 研修の実施
- ⑤ 小中学校における積極的な相談窓口の周知・啓発 (プリント配布、ポスター掲示など)
- ⑥ 児童・生徒を対象としたストレスとその対処法についての研修の実施
- ⑦ 児童・生徒に関わる大人を対象としたストレスとその対処法についての研修の実施
- ⑧ 児童・生徒のこころの相談を受ける専門職の増員
- ⑨ その他 ()

※1 ゲートキーパー 『命の門番 (=ゲートキーパー)』と位置付けられる人のことで、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。特別な資格は存在しない。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

☆枚方市保健所 保健医療課では、4) でお尋ねした研修や対策に関する研修プログラムの実施が可能です。プログラム内容等に関心をお持ちの方がおられましたら、ご連絡ください。各研修の実施についてご相談をお受けいたします。